財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

平成
元年度

1990

序

近年、藤ノ木古墳や吉野ヶ里遺跡を始め、埋蔵文化財に関する事柄がマスコミを賑わすことが多くなってきております。本センターにおきましても平成元年度は、朝日遺跡の銅鐸の出土や岩倉城遺跡の調査などが新聞誌上やテレビ等にも取り上げられ、多数の方の目に触れることとなりました。また両遺跡以外にも、県内14ヶ所で発掘調査を実施し、多くの成果があがってきております。

今年度もこれらの調査や普及活動の記録を「年報　平成元年度」として公表することとなりました。本書が、考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用のうえでも、お役に立つことができればまことに幸いと存じます。

さらに、本書の刊行及び発掘調査にあたっては、専門委員の諸先生及び愛知県教育委員会の御指導並びに建設省、日本道路公団、愛知県土木部及び林務部、住宅都市整備公団、地元市町村その他の関係者の方々に多大な御協力をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

平成２年３月

財団法人　愛知県文化財センター

理事長　松川　誠次

例　言

1．本書は、財団法人愛知県埋蔵文化財センターの平成元年度事業の概要をまとめたものである。

2．調査は、建設省中部地方建設局、日本道路公団名古屋建設局、愛知県土木部及び農地林務部、住宅都市整備公団から、愛知県教育委員会を通じての委託を受けて、本センターが実施した。

3．調査の概要は、各遺跡ごとにまとめたものである。

4．普及活動の概要は、本センターの事業のうち、研修会・埋蔵文化財展などの埋蔵文化財の発掘調査以外の事業についてその概要を掲載した。

5．調査研究は、発掘調査及び整理作業を通じて研究成果の一部を集録した。

6．発掘調査にあたっては、専門委員の各氏及び愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導助言をいただいた。

7．本書の作成にあたっては、阿部小百合、枝廣千代子、岡田智子、河合明美、孝久由希子、楯真美子、中垣内薫、永草康次、西沢英樹、長谷川恵子、古橋佳子、山本ひろみ、各氏の協力を得たほか、関係各機関並びに、地元作業員の方々には過大の援助を賜わった。

8．調査区の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。

9．各調査区の名称はローマ字で表わし、前にその年の年度を冠する。ただし、昭和63年度までは年号を付けていたが、平成元年度より西暦を使用することとなったため、1988年度は63〇区、1989年度は89〇区となる。

10．文責は各文末に記した。

財団法人　愛知県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理事長

松川　誠次

常務理事

鈴木　正明

理　事

小金　　潔	県教育長
井関弘太郎	中部大学教授
伊藤　秋男	南山大学教授
大参　義一	信州大学教授
坪井　清足	(財)大阪文化財センター理事長
楢崎　彰一	名古屋学院大学教授
花木　蔦雄	都市教育長協議会会長(一宮市教育長)
(89年6月辞任)	
稲石　　新	都市教育長協議会会長(蒲郡市教育長)
金島　　覚	町村教育長協議会会長(西枇杷島町教育長)
下田　修司	県土木部長
白井　正巳	県教育委員会社会教育部長
武田　　晋	清洲貝殻山貝塚資料館館長(清洲町長)
山田　五夫	陶磁資料館館長

監　事

福地甲子八	
小倉　政則	県出納事務局次長

専門委員

考古学	楢崎　彰一	名古屋学院大学教授
文献史学	早川　庄八	名古屋大学教授
地理学	井関弘太郎	中部大学教授
建築史学	浅野　　清	愛知工業大学教授
考古学 動・植物学	渡辺　　誠	名古屋大学教授
形質人類学	池田　次郎	岡山理科大学教授
保存科学	江本　義理	前東京国立文化財研究所保存科学部長
岩石学	諏訪　兼位	名古屋大学教授
木材組織学	木方　洋二	名古屋大学教授

職　員

事務局長(兼管理課長)		渡辺　守夫

管理課

主　査	古田　伴弘	
主　事	鈴木　孝治	大野　智靖
	村上　寿章	小倉　晴美

調査課

課　長	明壁　正毅	
課長補佐兼主査	森　　勇一	
	山仲　廣司	
主　査	梅本　博志	福岡　晃彦
	神谷　友和	日比　　宰
主　事	小澤　一弘	松原　隆治
	山田　　基	安井　俊則
	赤塚　次郎	小塚　俊夫
	真鍋　雅治	石黒　立人
	宮腰　健司	佐藤　公保
	城ヶ谷和広	北村　和宏
	酒井　俊彦	池本　正明
	服部　信博	川井　啓介
	後藤　浩一	鈴木　正貴
	樋上　　昇	
嘱　託	松田　　訓	岡本　直久
	加藤とよ江	山口　昌直
	金子　健一	伊藤　隆彦

目　　次

Ⅰ.遺跡調査の概要

調査の理由と工程…… 2
遺跡の位置…… 4
朝日遺跡…… 6
清洲城下町遺跡……12
土田遺跡……20
勝川遺跡……22
松河戸遺跡……26
岩倉城遺跡……36
池下古墳……42
小田妻古窯跡群……46
岡島遺跡……50
東光寺遺跡……52
森岡遺跡……58
麻生田大橋遺跡……62
東海北陸自動車関係埋蔵文化財調査について……68
清水遺跡……70

Ⅱ.調査研究

朝日遺跡出土の金属器鋳造関連遺物について …… 石黒立人・野口哲也…… 72
朝日遺跡出土の骨角器 ……宮腰健司…… 77
春日井市松河戸遺跡ＳＤ120について……後藤浩一・神谷友和…… 87
松河戸遺跡ＳＤ105について……岡本直久…… 98
岩倉城遺跡下層出土の古墳時代前半期の遺構と遺物 …… 服部信博……106
戦国城下町岩倉の復元的考察－調査の成果と地籍図の検討から－……
金子健一……118
濃尾平野周辺地域における遺跡基盤層の粒度および鉱物組成……
森勇一・楯真美子・永草康次……131

Ⅲ.埋蔵文化財センターの活動

埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会 …… 144
発掘調査技術等研修会 …… 145
資料の貸出 …… 146
現地説明会 …… 147
検討会 …… 148

Ⅳ.付篇（受贈図書目録）……150